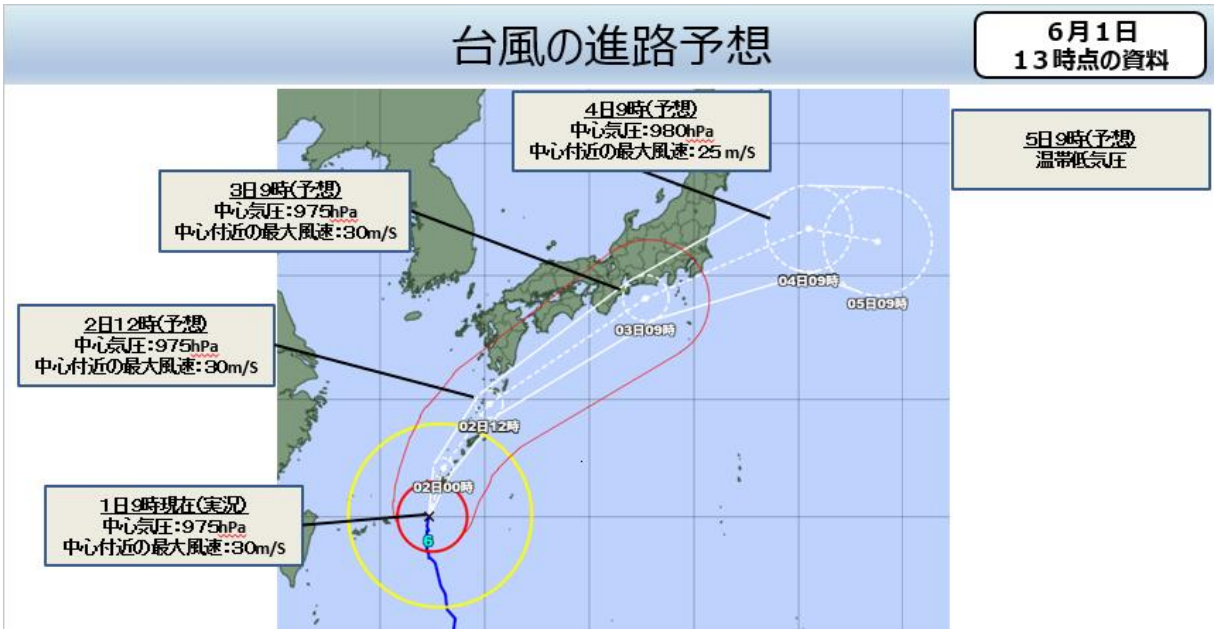
台風６号の影響に対する農作物の技術対策

令和８年　６月　１日
山梨県農政部農業技術課

台風６号が日本列島に接近する予報となっています。農作物の管理には十分注意してください。

〇甲府地方気象台：６月１日　１３時時点

台風第６号は、３日朝から昼前に山梨県に最も接近する見込みです。



【大雨の予想】

３日は、峡南地域や東部・富士五湖を中心に<u>１時間に３０～４０ミリの激しい雨</u>が降る見込みです。

〇２４時間の予想降水量（多い所）２日１２時から３日１２時

峡南地域、東部・富士五湖　：　２００ミリ

中北地域、峡東地域　　：　１５０ミリ

【風の予想】

台風が東日本に接近する３日は、山梨県では北よりの<u>強い風</u>が吹く見込みです。

〇３日に予想される最大風速　中･西部：１５メートル　東部･富士五湖：１５メートル

・台風の進路や接近に伴う降雨予想など、最新の気象情報に十分注意する。
・台風の接近により梅雨前線が刺激される場合、大雨や降ひょうが発生する恐れがあるため早めの事前対策を徹底する。
・台風等の接近時は、強風などにより人的被害の危険性が高まるため、大雨や強風が治まるまでは、見回り等は行わない。
・大雨が治まった後も、増水した水路やその他の危険な所は、近づかないなど安全に十分注意する。
・被害防止のため、以下の事前・事後対策を徹底する。

○共　通

「事前対策」

① ほ場周辺の排水路を点検・補修・整備するとともにゴミ等を取り除いて排水路からの逆流を防止する。また、ほ場内には、排水溝を設ける。
② 風当たりの強い地域では、ほ場周辺に防風ネットを設置する。
③ ハウス等の支柱や基礎部分などを点検・補強するとともに、ビニールがまくられないようにマイカ線等を点検し、施設の被害防止に努める。
④ 強風による飛来物で、ハウス等の施設が損傷しないように、周辺の清掃や防風ネットを設置する。
⑤ 停電や断水に備えるとともに、必要な資機材・燃料・応急資材を事前に確保する。

「事後対策」

① 滞水しているほ場は、速やかに排水を行う。
② 茎葉や果実の損傷により病害の発生が懸念されるため、指導機関の指示に従い薬剤を散布し、病害の発生を予防する。
③ 施設栽培では、棚やパイプハウス、ビニール、各種の装置・機械等を点検し、破損がある場合は速やかに修理する。
④ 台風通過直後は、突然の強風が発生する恐れがあるため、被害の拡大に注意するとともに、作業時は農作業事故が発生しないよう十分注意する。

○果　樹　　共通対策に加え、以下の対策を実施する。

「事前対策」

傾斜地等では、樹冠下の土壌流亡を防ぐため、敷ワラや敷草を行う。

＜立木果樹＞

① スモモの大石早生、モモのちよひめ、はなよめなど早生品種が収穫前となる。枝のゆれによる落果を防ぐため、風の当たりやすい枝を中心に支柱などにより固定する。
② 反射マルチを敷いている園では、強風で飛ばないようにしっかりと固定するとともに、十分に着色している園ではマルチを除去する。
③ 倒伏や主幹部の損傷を防止するため、支柱等により固定する。帆柱が設置してあるモモ園等では針金を点検し補修する。

＜棚栽培果樹＞

① 強風による棚のゆれや倒壊を防ぐため、つか杭を設置する。つか杭は、外れないように針金などで棚面と固定する。

② ブドウおよびナシ・スモモ・モモの棚栽培では、棚の周囲に防風ネットを設置する。
③ ブドウでは、新梢が強風で棚から外れるのを防ぐため再誘引を行う。
④ ブドウでは、開花期から結実期となるため、房の打撲・葉ズレなどが生じないよう新梢をしっかり棚面に誘引する。

＜施設果樹＞

① 施設栽培では、棚やパイプハウスを点検し、補修や補強を行う。特にビニールがまくられないようにマイカー線等の点検を徹底する。
② オウトウやブドウの雨除けハウスでは、施設の倒壊を防ぐため、風が強まった際にはビニールを巻き上げる。
③ 収穫終了後のオウトウ園では、天張りビニールや防鳥ネットの収納に努める。収納できない場合は、巻き取りパイプをしっかりと固定し破損を防ぐ。

「事後対策」

＜台風通過直後＞

①園地が滞水している場合は、速やかに排水対策を図る。また、傾斜地で根元の土壌が流亡している場合は土寄せを行う。
②樹が倒伏した場合は、台風通過後直ちに、根を傷めないように樹を起こし、根元に土を寄せ支柱等で固定する。
③太枝が裂けた場合は、裂傷部をビニールで覆い縄等で結束する。なお、裂傷がひどい場合は、裂傷部を平らに整えてゆ合剤を塗布する。
④有袋栽培のモモで、二重袋の外袋など袋が脱落したものは、速やかに袋をかけ直す。
⑤ブドウは、枝や新梢の再誘引、カサのかけ直しを行う。また、葉ズレ、カサズレ、打撲のひどい果粒は摘粒する。
⑥落果した果実は、病害の伝染源となるため、速やかに園外へ持ち出すか、土中に埋める。
⑦ほ場巡回を行い、裂果や果実腐敗病が発生している場合は、速やかに除去する。
⑧強風や降雨により、枝葉や果実への損傷や泥のはね上がりなどから、病害の発生が心配されるため、防除基準などに従い薬剤防除や発病果などの除去を徹底する。
⑨施設栽培では、棚やパイプハウス、ビニール、各種の装置・機具・機械等を点検し、破損のある場合は修理する。

＜大雨後の対策＞

台風通過後は梅雨期に入り、曇雨天が続く可能性もあるため、次の点に注意する。

① 病気が発生している園では、発病部位（新梢、葉、果実など）を見つけ次第、除去するとともに、防除暦などを参考に薬剤防除を徹底する。
② 週間天気予報をこまめに確認し、防除間隔が空かないよう慣行防除を徹底する。
③ 散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を延期せず降雨前に散布する。
④ 連続的な降雨や強い雨が降った場合は、薬剤の残効が低下しやすいため、散布間隔を短くする。
⑤ 雨の合間に薬剤散布を行う際、葉が濡れている場合は、ＳＳの送風ファンなどで露を払ってから散布を行う。

○野　菜　　共通対策に加え、以下の対策を実施する。

「事前対策」

①ナス、トマト、キュウリ等は、倒伏を防ぐため支柱の補強、固定、誘引等を行う。

②スイートコーンは、絹糸抽出から１週間後以降（受粉期以降）に、雄穂を切除して草丈を低くするトッピング処理を行うことにより、倒伏軽減効果が得られる。この際、雌穂（果実）の上位に２葉以上を残して切除を行う。

「事後対策」

①果菜類では、茎葉の損傷や泥のはね上がりにより、疫病、菌核病等の病害発生が懸念されるため、天候の回復を待って薬剤を散布し、病害の発生を予防する。

②ナス、トマト、キュウリ等は、キズ果を早めに除去し、株の負担を軽減して草勢の維持を図る。倒伏したものは速やかに引き起こす。この際、根を切らないように注意する。

③スイートコーンは根を傷めると果実の肥大など生育に影響が出るため、倒伏した場合、無理に引き起こさないよう注意する。雄穂抽出期前の株は自力で起き上がるため、そのまま管理を続けて回復を待つ。雄穂抽出期以降の場合は、今後の管理作業に支障を来さないよう、マイカー線で囲むなどして株を支える。収穫時期が近く薬剤防除の必要が無い場合は、そのままにして収穫を迎える。

○花　き　　共通対策に加え、以下の対策を実施する。

「事前対策」

①露地切り花は、冠水防止のため畝間に排水溝を設置する。

②鉢花の露地ベンチ栽培では、ベンチに固定できる鉢利用（C鋼鉢）や穴あきトレーを利用するなど日頃より台風等による倒伏防止に努める。

「事後対策」

①茎葉の損傷により、疫病、灰色かび病等の病害発生が懸念されるため、防除基準にしたがって予防散布を徹底する。

○水　稲

「事前対策」

①浸水・冠水害を防止するため、排水路の点検、補修、ゴミの除去を行う。

②事前に水口、排水口をふさぎ、水の流入を防ぐ。

③ほ場内で育苗している場合は、周囲に排水溝を設ける。

「事後対策」

①浸水や冠水した水田では、早急に排水に努め、新鮮な水を潅漑する。

○畜　産

「事前対策」

①畜産施設については、損傷、倒壊等を避けるため早めの点検を行い、必要に応じて補修を行う。

②畜産施設への浸水の恐れがある場合、溝を掘るなどの対策を講じる。また、畜舎への浸水等による家畜への被害に備え、事前に避難場所の確認などを行う。
③停電や断水等への対応を確認し、必要に応じて発電機等の手配をするとともに、搾乳作業やバルククーラーの冷却に支障のないよう、万全を期す。

「事後対策」
①飼料作物
冠水や浸水等の被害を受けたほ場においては、速やかな排水に努める。
②家畜
品質の低下した飼料作物や濃厚飼料を給与をする場合は、栄養価や嗜好性等にも配慮し、家畜の生産性が低下することのないよう注意する。
③畜舎
天候が回復した後、直ちに畜産施設内及びその周辺の排水を行う。また、土砂が流入した場合には、再度の土砂流入等の事故に十分注意しつつ、土砂を除去する。台風通過後は、畜舎内外の消毒を徹底し、疾病等の未然防止に努める。